HOKUTO Healthcare Consortium Vladivostok Imaging Diagnostic Center Project



Consortium members:

HOKUTO Social Medical Corporation and PJL Inc.

Apr. 15th, 2013

Why Russia, Why Diagnostic Center?

Because our experience shows that

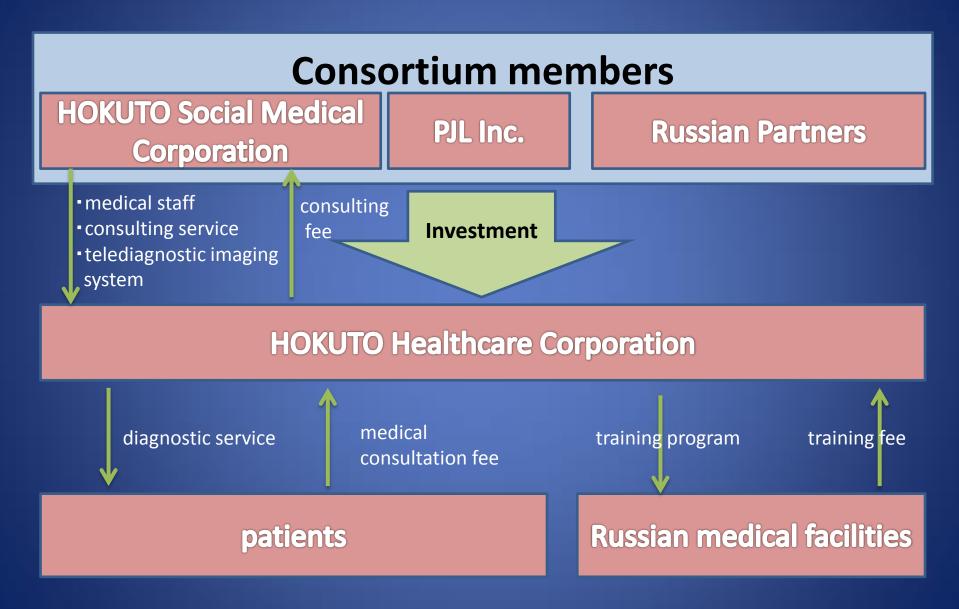
- Many patients are coming from Russia to Japan for medical treatments. They need accurate diagnosis and recommendation;
- 2. There is no Japanese medical facilities even in the Far east part of Russia.

And we've decided to open a diagnostic center to

- Provide services that the neighbor needs;
- Develop the Center and partnership with the neighbor.

Our project has started in April 2011, the Center opens in May 2013.

Business scheme



Information about HOKUTO Hospital

Official Name HOKUTO hospital, HOKUTO social medical corporation

http://www.hokuto7.or.jp/

Address

7-5, Inadacho-Kisen, Obihiro, Hokkaido



HOKUTO Hospital and HOKUTO Clinic

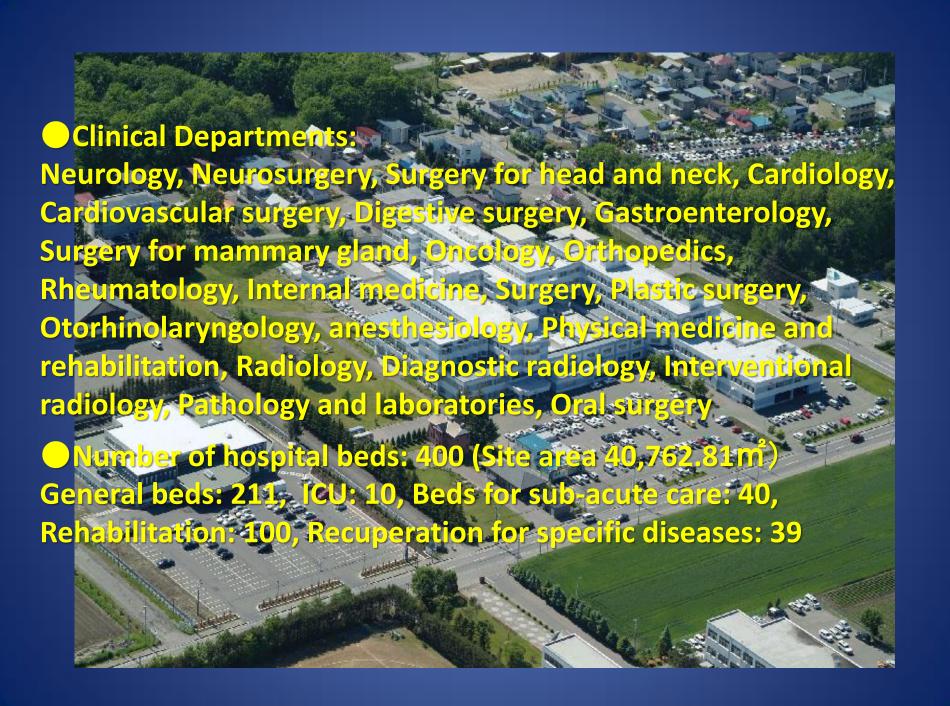


- Cerebral apoplexy center
- Cardiovascular center
- Oncology center for head and neck
- Gastroenterology center
- Articulation center
- Spine center
- Imaging diagnostic center, radiation therapy

center and others

Total: 14 centers

Fujimoto Hayasuu Hospital 2002/11/13 Fukushima



Our intention and goal in the project

- To establish the imaging diagnostic center (the Center) and manage it by a joint venture with local partners in order to develop and spread the secondary prevention in Russia.
- To provide accurate diagnosis for patients on the basis of a imaging telediagnostic system between HOKUTO hospital in Japan and the Center in Vladivostok.
- To provide training programs not only for local staff but also for healthcare professionals in Vladivostok.
- To arrange medical treatment in Japan as necessary.
- To organize seminars for healthcare professionals and patients in Vladivostok.
- To communicate with healthcare professionals in Russia.
- To make efforts to spread Japanese medical equipment in Russia.

Intention of Russian partners

Russian side can:

- use Japanese brand: There is no other medical facilities in Russia where the concept and medical equipment would be Japanese. This is additional value to appeal to users. The telediagnostic system which is connected with Japan directly can provide confidence in the service quality for patients.
- give patients precise recommendations on the basis of telediagnositic system.
- •expect upgrading of medical knowledge and service quality in the process of training for the local staff and healthcare professionals.
- provide not only update medical information but also opportunities to be trained in Japan for local healthcare professionals.
- provide opportunities for local healthcare professionals to be advised not only on clinical cases but also on general medical issues by Japanese specialists.

- The plan and design of the building for the Center are ready.
- Joint venture is established to manage the Center.
- Models of medical equipment are decided.
- Employment and training of local staff.
- The concept and base of medical service are agreed.
- Cooperation with Vladivostok State Medical University.

The plan and design of the building for the Center are ready.









Joint venture is established to manage the Center.



Employment and training of local staff

Cooperation with Vladivostok State Medical University



- Construction of the building for the Center
- Transportation and installation of medical equipment in cooperation with Hitachi Medical Corporation
- Training for local staff
- Public relations for opening of the Center
- Opening of the Center
- Cooperation with insurance companies
- Communication with local healthcare professionals, organization of training programs and seminars on the secondary prevention for medical students

Construction of the building for the Center



Transportation and installation of medical equipment in cooperation with Hitachi Medical



Transportation and installation of medical equipment

- 1. biochemical examination of blood
- → installed
- 2. hematology examination
- → installed
- 3. ABI:ankle brachial index
- → installed
- 4. electrocardiogram
- \rightarrow installed
- 5. ultrasonic diagnostic equipment
- → installed
- 6. CT: computed tomography
- → installed
- 7. MRI: magnetic resonance imaging
- → installed
- 8. image processing server
- → installed















Training for local staff at HOKUTO Hospital



Communication with local healthcare professionals, organization of training programs for local staff and seminars on the secondary prevention for medical students



Preparations for the opening of the Center





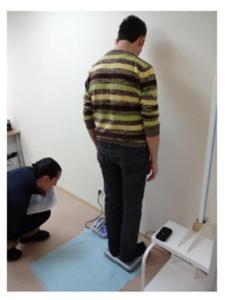






Medical equipment Setup,

Simulated opening of the Center



Preparations for the opening of the Center



We are grateful for support from METI



METI journal 経済産業省ジャーナル



検索

もう、ここまで進んでいます!

日本の診断技術を

ウラジオストクに「画像絵新センター」を-北斗病院(養広) と PJL (東京) がコンソーシアムを組み 事業を軌道に乗せるべく、奮闘しています。



何でしょうか?

久保田 理事長の顧用による言葉で すが、「医学というサイエンスに国 境はない。しかし医療は国ごとに異 なる」 --- 。 医療は法制度ですから 何からどう干をつければいいのか、 知道もノウハウもありません。 単独 での選出だったら、道のりはもっと 険しかったでしょう。

山田 加えて重要なのが現地のパー トナー。債額のおける現地底療法人 と北洋病院さんの標準しができた結 果、クリアすべき法律問などの情報 収集も収集になりました。

久保田 ただ彼らは人間ドックに馴 染みがありませんでしたから、最初 は事業について疑問を抱いていまし た。そこで実際に当病院のドックを

体験してもらったところ、しだいに 理解が選まっていきましたね。 山田 実際にサービスを受けると、 やはり良さが伝わるのだと思います。 スタッフのマナーやホスピタリティ にも感心していました。

日本と同じ水準」の サービス維持が決め手

遊せ、経産者による「医療機器 サービス国際化薬薬」の採択事業と して運められています。今後のビジ ョンについてお願いします。

久保田「国に認められている」事 業であることが、後押しの一つにな ったと思います。

山田 信頼度がアップしたことは間 **達いありません。おかげで医療機器** メーカーさんとの鍵整も、スムーズ に進みました。

女保田 画像診断センターで動くス タッフはロシア人ですので、当南は 指導・サポートにあたります。遠隔 画像診断システムを導入して診断は 日本で行いながら、必要に応じて医 師が出張し、研修なども行う予定で す。一方、私たちのセンターは絵音 施設ですから、頻気が見つかった場 合の早期治療を現場で適切に行える よう、各級院とのネットワークを整 えます。やがては広く極東地域全体



推地スタッフの研修社主斗的製で実施。「もてな し、までを含めた「日本式収穫」を学びました。

に第二次予防を管及させ、人々の鍵 廉に貢献であればられしいですね。 山田 センターを成功させる決め子 は、「日本と同水準」のサービスを提 供し続け、評価を確立すること。診 新結果の印確な説明や、牛込及養の アドバイスなどにも力を入れる必要 があるでしょう。減会ながらロシア では インフォームドコンセント (医師の説明と患者の同意)が役付い ていない。このセンターが、苦情を 変える起点になれたらと考えていま す。北斗病院さんは、国内でリハビ リテーションにも精緻的に取り組ん でいます。ゆくゆくはその分野でも ロシアへ進出できるよう、当社も終 カしていくつもりです。

●北井麻敷 ●ビー・ジェイ・エル株式会社(PJL)

- 高俊絵新ヤンター設立のいきさ つについて数えてください。

久保田 約2年前、私たち北斗病院 は医療ツーリズムの受け入れを検討 しました。そこで着目したのがロシ ア極東地域。ただ、需要の影響をは じめ、難しい提出事情が分からない。 そこでコンタクトを取ったのが、日 口貿易などに多くの実績をもつPJL

山田 PJLは貿易のほか、日本人ド クターたちのロシア視察のお手伝い や、現他の患者が日本で治療を受け るためのコーディネートも行ってい

ます。そうしたなかで、ロシアの両 機能新技術が悪しく低いことを経惑 していました。ですから久保田さん からお話をいただいたとき、まず皆 さんをウラジオストクへお連れして、 実態を知ってもらおうと表えたので ず、提供を助れた北京保険の毎日曜 事長は、「この地で何か行動を起こ すべきだ」とおっしゃった。それが

久保田 ええ。医療ソーリズムより も、現地での画像診断の充実こそ、 私たちの技術や知識を生かすことが できる。そう方向転換しました。北

次予防(症状が出る前の早期発見・早 期治療)が21世紀の医療の中心と 考え、脳・心臓ドックやがんドック の普及に力を注いできました。しか しロシアにはそうした概念がなく。 平均素会は60歳代にとどまってい ます。このような状況にニーズを見 出し、PJLさんがご紹介くださった 現地医療法人と合弁会社をつくって、 画像彩新センターを経営する運びと なりました。2013年2月の開業予

当何時は1993年の間時以来 第一

- 海外展開に欠かせない条件とは



日本製機器の海外シェアを伸ばす糸口がある 株式会社日立メティコ 第本後也まん

そして政策企業としてのさらな います。

当社は プロジェクトを立ち 上げた方々からのお問い合わせ 異なり、また皮膚に対する考え りました。 を確に、2011年4月頃より「画 方も多種多様です。その国に合 倫製館 サービス 使出プロジェク Fi 仁参加。「社会保護的在国内 死魔」と「国際サービス原業と 成功している死魔技術を 現象 強させていただきましたし、何 しての原稿。を取合する。そう の社会問題を知るし合わせると より書意な人語を築くこともで したコンセプトに共悲しました とも重要だと思います。今回の 音求した。今後 ロシア極策地 し、また、パッケージがによる つつある」ことも感じていたタ ここに日本製機能輸出の振興、 に関わる一人として誇らしく形 イミングでした。

日本と簡例では法律や別席が る社会育家を実現する糸口があ った事業課券を考えることが不

も」という気持ちです。ただ準 可欠である一方、例えば日本で 機を適じてさまざまなことを妨 プロジェクトでいえば「日本の 域の観察の底上げたおける機能 予防表表」と「ロシアの効果会」。 モアルとなれれば 日本の表象